

日野の泉

No. 2

平成27年12月22日

二学期を振り返って ～日野を舞台に躍動する子どもたち～

暖冬と言われ、いまだ厳しい寒さはやってきませんが、年の瀬が迫って参りました。

2学期も、日野小児童のやる気に満ちた姿がたくさん目に飛び込んできました。

1学期から感じていたことですが、日野の子どもたちは外で実によく遊びます。2学期もその姿に変わりはありませんでした。本校を訪れたお客様が休み時間の校庭に目をやり、「これから何かあるんですか」と尋ねました。続々と子どもたちが校庭に飛び出していく様を見て、何かの催しが始まるのかと思ったそうです。校庭でボールを追いかけたり、池の周りを飛び回ったり、雑木林で木登りをしたりしている子どもたち。多少の雨ではその光景は変わりません。日野小の様々な環境（自然環境・運動環境・学習環境等）が、『春の小川』の歌詞に「あそべあそべとささやきながら」とありますように、子どもたちに呼びかけてくる、働きかけてくるのでしょう。



11月、日野地域づくり文化祭と共催で実施した「いずみまつり」は、あいにくの雨でしたが、保護者・地域の皆様のお陰で、喜々とした子どもたちの姿に満ちあふれていました。各コーナーの名人を引き受けてくださった皆様のまなざしが印象に残っております。伝統的な遊びや芸能・文化にのめり込んでいく子ども、温かく見守りながら教える名人の方々、『伝承』というのはこういう姿が原点なのでしょう。地域の方々の応援に日野の子どもたちが励まされ、子どもの

笑顔に地域の方々が元気をもらおう。そして、日野地区全体が、いっそう明るく活力のある地域として発展していく。学校と地域が共に伸びていく関係でありたいなど改めて感じました。

芸術の秋 感動をよんだ 校内音楽会

心に響く音楽会でした。保護者の皆様をはじめ、地域の皆様から児童の演奏に拍手をいただきました。音楽会の最後にも話しましたが、演奏もさることながら『聴く』気持ちがいっぱいだった。ある子は、体でリズムを取りながら、またある子は、じっと食い入るように見つめながら。「ああ、あの子は、ステージで演奏している友と一緒に演奏しているんだな」と思われる姿を随所で見つけることができました。その人がどう演奏したいのか、どう演奏しようとしているのか、それを体で感じながら聴いているのでしょう。



子ども共に、素晴らしい音楽の一時を創り上げていただいたことに感謝です。

市内卒業学年親善音楽会(6年) P T A音楽祭(保護者)への参加

親善音楽会では、本校6年生の元気いっばいの歌声がメセナホールに響き、最後をしめくくりました。他校の演奏に刺激を受けた子も少なくなかったようです。帰校してバスを降りた後、他校の合唱のさびの部分で口ずさむ姿が印象的でした。市内6年生が音楽を通して交流する意味をそんな姿に感じたのです。

翌日P T A音楽祭がありました。練習も含め協力いただいた全ての皆様に感謝です。日野小学校を「花咲き、鳥歌う学校」、児童の歌声が絶えない学校にしたい。そのためには、保護者の皆様にも子どもと共により多くの機会に歌声を響かせていただきたい。そういう意味で、今回の校内音楽会及びP T A音楽祭で多くの皆様にステージに立っていただいたことが貴いのです。さらに日野小を「花咲き、鳥歌う学校」にするために、P T Aの歌声の和をいっそう広めていきたい。そんな思いを強く致しました。

「人権教育月間」を機会に振り返る 11月

校長講話では、「電車の中」という小学生の作文を紹介し、「思い込み」や「決めつけ」によって、人の心を傷つけてしまうことはないか振り返る場を与えようとなりました。読み終えた後、体育館は一瞬しんと静まりかえりました。…

そして、作文紹介後、その内容について児童にこう語りかけました。

私たちは、見た目だけで、その人は元気な健康な人なんだ。と決めつけてしまうことがあります。一度こうだと思えば、決めつけた見方からなかなか抜け出せないことがあります。それを「思い込み」(決めつけ)と言います。思い込みは、友だちや周りの人の本当の姿を見えなくしてしまったり、本当の気持ちを考えようとしなくなったりさせます。恐そうな顔をしているから、身体がでかいから、…など、自分の今までの経験や見目で、そういう人に違いないと判断してしまうこと、見てしまうことを、『思い込み』(決めつけ)と言います。

この作文には、まさにその思い込みによって、一人の女の子を深く傷つけてしまった経験が書かれていました。私たちが学校や家で生活をしていると、そういう思い込みや、決めつけはよくあることです。そうされてしまったことによって、悲しい思いや嫌な思いをしてしまったこと、逆に、自分がそうしてしまったことは、校長先生自身もありますし、皆さんにもあると思います。

だからこそ「思い込み」を「思い合い」にするにはどうしたらよいか考えていく必要があるのでしょう

本との出会いは人との出会いに等しい ～読書旬間を終えて～

日頃からお世話になっている「たんぼぼの会」の皆さんの他に、P T A役員の皆さんにも、子どもたちに本との出会いの場を与えていただきました。また、姉妹学級や先生方による読み聞かせの企画もあり、出会いの世界が広がりました。

戸外で元気よく遊ぶ児童と同様に、図書館に足を運び本から心の栄養を蓄えようとしている児童のいることも頼もしく思います。



2学期も変わらぬご支援ご協力をいただきましたこと、誠にありがとうございました。この場を借りて感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。